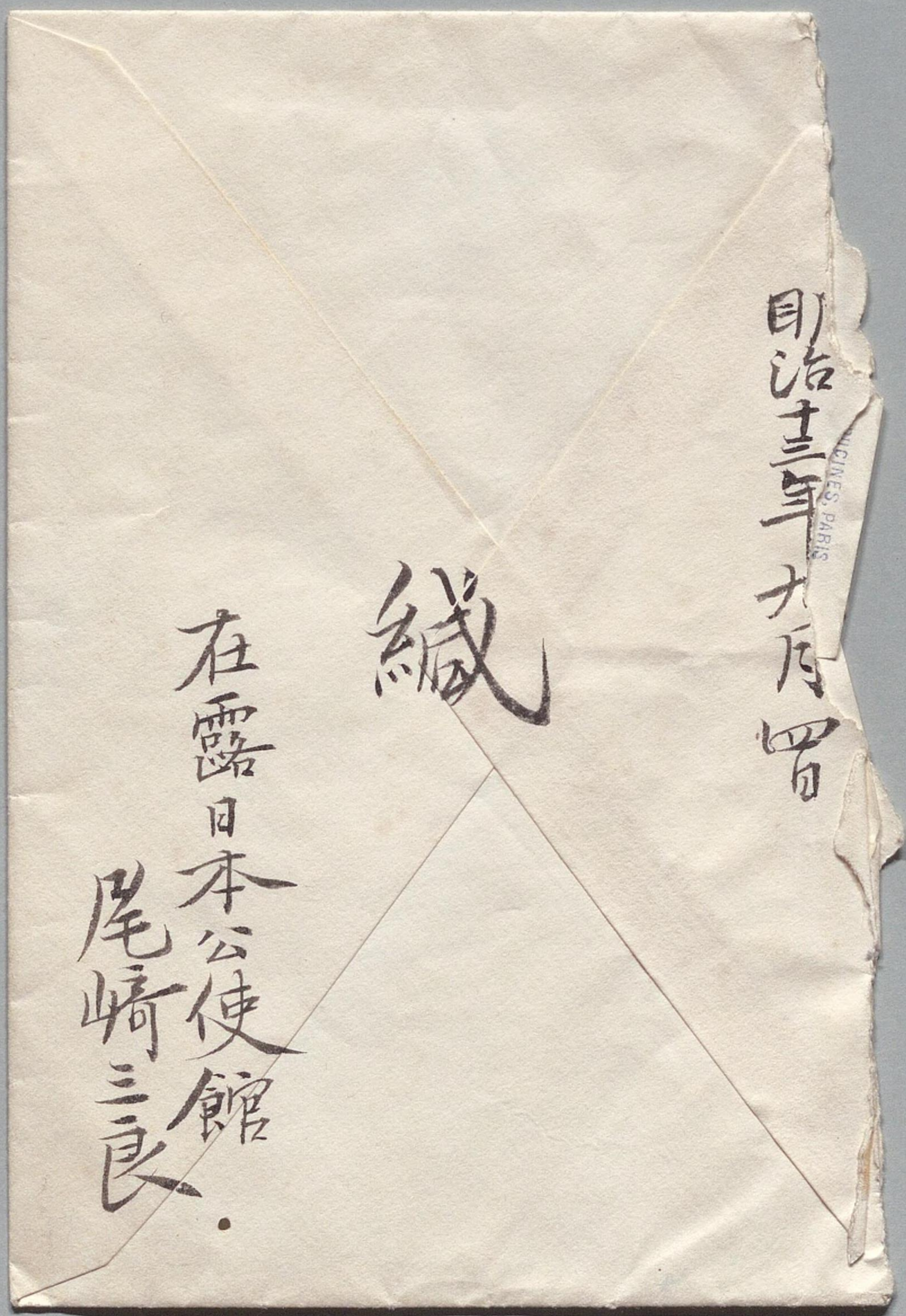


7号

岩倉右大臣殿閣下
御親展



明治三十一年九月四日

織

在露日本公使館
尾崎三良

30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60



国立国会図書館 尾崎三良関係文書 65-2

再東の意所感榮所奉職可被在焉
況至極意存良以中興一御
也然亦下事外之難
有言而將去月三日柳原公使
謁帝國書
捧筆武在深
三長初一行
悉謁見各勅
語了萬事都
存り、お怒り、
其後一帝、
游覧者、為、
南方里海を
傷、出立大
臣多ふ
唐尼之都府
却、平安、
寧、來、十
月
以、佛、府、
越、有、近
東、歐、州、
政、治、上
善、之、お、
存、り、義、
之、彼、五、
耳、其、疆、
界、
論、衆、口、
藉、之、元、
所、十、七、
日、到、底、
若、國、由、
情、

一教事の所より其の之を調査し其故を
容易に開口に被りて各國始に強藩に
似て此部にて頗る遠巡し景懐有り
而臨清關係一併も大に平和主義あり
清國公使曾紀澤に能く英語ヲ解し數に
面晤し其の事柄ヲ能く解し
其の様を存し之を以て景懐に交致
せしむる有り之を以て存儲出書し
此諸本有り之を彼ノ虛無堂一併に
探求せしむる何れも其の充分詳知

大正

初より極別根原を以て其の概を
初出は一千八百七十三年に於て
其類を廢たす目的を以て少冊子ヲ
撰りて其の用は愚夫愚婦に解し
民官の兵卒に於て教育の要其
端人捕縛に付て名に懲役ヲ以て
せらるる者有り一時平和に歸し
年々其の再考數に帝ヲ相輔せし
既衆人の知所なり然るに今其
帝特治安保護局ヲ置き各省に
陸軍



大将ヨリスメリコフヲ以テ其長官ト爲シ文武高官
數人ス其委負ト爲シ虚無黨處分ノイテ委任
シタリメリコフ氏帝ニ奏シテ都テ寛大ナルテ處
分ヨリ其説ニ向ク人民ヲ壓制スルモ可キテ政府ノ
強以テ昂今ノ人民ヲ壓制スルニ誠ニ易キニ然レ
此壓制強ニスルハ人民益激動シ不測ノ災害ヲ
醸成シ政府騎虎ノ勢ヲ馴致シ終ニ勢ヲ止スルカラス
其強ニス一旦挫折スル時ハ土山崩瓦解膏ノ
ナラサシトス如カス今我々稍々寛大ノ政畧ヲ用ヒ
且世果リ萬國風潮終ニ靜クヘカラス壓制終ニ

大甘菱

勝ツ能ハサル者アラシト是ニ於テ秘密警察ヲ
緩シ曾テ國事犯ノ疑フ以テ獄セラシムル者
ヲ解放シ諸事寛裕ヲ旨トシ處分ニタリ是ヲ
以テ民望一時安然虚無黨主亦跡ヲ藏ム
メリコフ氏威赫ニ帝寵遇益熾ナリ終ニ
衆ノ嫉妬ヲ来シ非謗四出是レ古今免シサルノ
人情是然レ帝幸ニ寵遇衰ヘス此節國
内平和帰レ虚無黨一件モ生ツ局ヲ結ビ
タリト云レテ右治安局ヲ廢シメリコフヲ以テ
内務以ト爲シ左國大警視任シタリ右ハ昨今

大甘菱



當府一呈現者一猶又確之事情
句了行時白報先之概充三處無遺
外國之評滿元程一子一五一
人彼名公此一但幸便所起兵亦自奇一
書據呈為部家即自於萬祈作
平惶頓首

雁比得僅府在勤

尾崎三良敬具

明治十三年九月四日
嚴倉右丞相閣下

大井菱

